

令和3年度 学校評価結果報告

田村市立要田小学校

観 点	評価項目	自己評価				学校関係者評価		総合 評価	改善計画	
		評価アンケート			評価	取り組みの状況	コメント			評価
		教職員	児童	保護者						
み、 生き 生きと 育成 の 育 成 を 楽 し ま な が ら	1 自ら学ぶことができる場の設定と工夫	86	79	87	B	複式学級の機能を生かし、自主的に学習を進めたり、友達同士で教え合ったりしながら、課題達成に向かって落ち着いて学習することができる。教科によって授業の単式化や個別指導の時間確保を図ることによって、各学年、単元末には8割達成ができた。また、一人1台配置されたタブレットをドリルやプログラミング、表現活動などで活用し、時間を有効に使って児童の基礎学力や表現力を高めることができた。	A	A	・次年度は完全複式となることから、児童の学ぶ力と教員の授業力をより伸ばせるよう努める。（目標の明確化、ペアやグループなど自分たちで進められる形態の工夫、効果的な個別指導時間の確保） ・「聞かれたことにしっかり答えられる児童」を目標に、効果的な表現の機会を位置づけ、自己表現力、対話力、コミュニケーション力を育てる。	
	2 教科の特質に応じた表現ができる場の設定	77	93	91	A					
	3 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着と習得を保証する授業改善	83	83	83	B					
	4 地域教材、外部講師、体験、経験に基づいた学びの活性化と深化	85	92	89	A					親子活動、陶芸教室、地域探検などで、指導者や引率ボランティアなど地域人材を生かした活動を昨年度より充実させた。児童が生き生きと取り組み、安全に豊かな体験学習が展開できた。
	5 児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援と特別支援教育の充実	92	96	93	A					児童の「分かった」「できた」思いを高める授業づくりを工夫し、タイムリーにほめ、認めながら、意欲を引き出す授業を展開した。児童が自ら学ぶ姿勢が高まっている。
徳 育 の 育 成 を 重 し 、 夢 を 育 む 子	6 親和的な学級・学校集団の形成	85	93	88	A	複式や学年縦割活動の展開、教師の適切な働きかけにより、仲の良い学校、互いに認め合う学級づくりができた。友達関係のトラブルもほぼ見られなかった。	A	A	成果のあった現在の取り組みを継続し、今後も児童のよりよい集団形成に努める。 ・児童の職業観を広げる活動の展開（外部講師の活用） ・家族や地域の方々の思いや願いを知り、自分の役割や今後の生き方について考えさせる機会を学年の段階ごとに設定し、閉校しても地域を大切にしようとする児童を育てられるようにする。 ・いつでも、どこでも、誰にでもあいさつができる児童を育てる。 成果のあった現在の取り組みを継続し、今後も諸問題の早期発見と対応に努める。 教員と児童のよりよい信頼関係の構築を目指して、児童とふれあう時間をつくれるよう、時間の使い方を見直す。	
	7 将来の夢や希望を持たせる教育活動の展開	83	94	80	A	社会科や総合学習で地域の方々とふれあう活動、また外部講師による食育や保健学習、動物とふれあう活動を実施した。各活動のねらいは達成できたが、そこから職業観を広げるなどの実践的なキャリア教育につなげるのに課題が残った。				
	8 あいさつ日本一の学校	89	86	76	A	コロナ禍で元気な声を交わせないこともあり、時と場によりあいさつに消極的な場面が見られた。				
	9 積極的な生徒指導の推進	88	84	87	A	日頃からの児童への声かけと見取り、教員同士の情報交換、またSSWなど外部機関と連携することで、問題を早期発見し、解決に向かうことができた。また、学校の様子を適宜保護者に伝え、連携を図ることができた。				
	10 働き方改革の推進	54	85	90	B	職員の超過勤務時間を適正に保つことができた一方で、授業時間外で児童と教師がふれあう時間をつくることが十分でなかったとの課題がある。				
持 っ て 運 動 し 、 自 ら の 心 を 身 を 育 成 す る 目 標 を	11 自分で自分を守る意識と能力の向上	86	89	95	A	避難訓練などの安全的行事を計画通り実施するとともに、日常的な安全指導、自他の命を大切にする道徳教育を充実させることで、児童が安全や健康に気をつけながら生活する態度を身につけ、学校事故を0にすることができた。 学校では、うがい手洗いや消毒などの感染対策の習慣をよく身につけるとともに、休み時間に外で元気に遊ぶ児童も多く、健康・安全に生活できている。一方で家庭生活では、ノーマディアの約束を守ること、読書、運動離れなどの課題が見られた。	A	A	成果のあった現在の取り組みを継続し、今後も児童への継続的な指導と校内外の管理を徹底していく。 ・環境整備、児童への指導において、今後でもできる限りの感染防止対策を図る。 ・学校と家庭との連携を図り、児童が自らメディアコントロールができるよう、情報モラル指導もあわせて行う。	
	12 命を大切にする心の育成	93	99	96	A					
	13 望ましい生活習慣の育成と体位・体力の向上	86	81	77	B					
	14 自ら目標を持って運動する場や支援の工夫	86	77	64	B					

※評価基準について・・・A:85点以上 B:60～85点 C:30～60点 D:30点未満

※学校関係者評価者・・・学校評議員6名（PTA会長・副会長、代表区長、代表民生児童委員、PTA会長OB会長）